

## CASE 10 4歳児



「ボウリング、やりたい！」



「切る役OK！」「貼る役、OK！」



「おさえて、先生！ぼく、まっすぐ貼りたい！」



「これで、レーン できあがったなあ」

### ボウリングのレーンを作ろう！

協力園  
学校法人別府大学  
春木保育園

(幼児の実態)  
秋の遠足で収穫した木の実や木の葉を園に持ち帰り、全クラスでドングリの種類分けや葉の形・色分けをしました。その後、木の実、木の葉を使って遊ぶ姿が園全体に広がっています。4歳児クラスでは、身近な素材と組み合わせ、思い思いにイメージを膨らませて遊ぶ姿が見られます。

ドングリ転がし迷路やキーボードに見立てたパソコンを作っていたA児は、今度は、「ボウリング(レーン)を作ろう」とB児を誘います。「大きい段ボールがあるなあ」と二人で材料置き場を探しに行きます。「これがいいんじゃない」と、長く開いた段ボールを見付けて部屋に運んで広げ、材料に満足する二人がレーン作りを始めていきます。その様子を見ていた保育者は、「できたら先生もさせてね」とボウリングをする期待をA児、B児と共有しています。

A児は、布テープを持ってくると、段ボールの縁にテープの先を貼り付け、伸ばしながら貼っていきます。B児は、同じ色のテープを短く切って貼っています。二人はそれぞれの方法で、段ボールの縁を全て貼り終えました。レーンが完成したので二人とも満足そうです。

次に、B児はサララップの芯をピンに見立てて並べ、A児がドングリボールをピンに向かって転がしますが、並べたピンまで届かず、レーンの外枠からはみ出てしまいます。何度か転がしてみますが、うまくいきません。保育者もこの様子を見て「どうしたら、はみ出さなくなるだろうね」と声を掛けています。B児は、「ここに何かあったらいいのかな」と黄色いテープを貼った縁を指さして言いながら、周りにある小箱を見付け、柵になるように置いてみます。箱を長く並べようとしますが箱が足りません。二人で、材料置き場に行ったり、友だちが使っているものを覗いたりしています。見つかりません。

二人の困っている様子を保育者はしばらく見守っていましたが、「テラスにないかな」と声を掛け、芋掘り後の乾いた芋づるにさりげなく目を向けさせます。芋づるを見付けたB児が嬉しそうに、芋づるを引っ張って来てレーンに置いてみると、ところどころが曲がりますが、保育者にも手伝わしてもらいながらゼロテープで貼ろうとしますが、すぐに離れます。するとA児が「テープを長くした方が、離れんと思うよ」と、長目に切ったテープを持ってきて、B児に渡しました。芋づるはテープで固定され、B児は、満足気にA児を見ました。保育者もうまくいったことを一緒に喜び合います。

A児がテープを切り、B児が貼るといった役割分担をしてレーンの縁にはみ出し防止が完成しました。

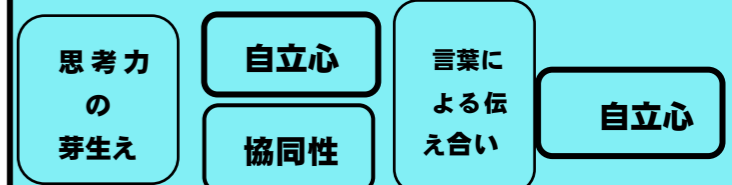
周りで思い思いに工夫しながら遊んでいた他の子たちが「ボウリングしたい」とそれぞれ手にドングリを持って集まって来ました。ボウリング遊びに興味を示す子どもが増え、列が出来ました。A児は、持っていない友達には、自分のドングリを入れた箱を渡し、「ドングリの数だけ転がしていいよ」と伝えていきます。

B児は、ドングリボールを転がす様子を見ていましたが、レーンの上で、ピンに見立てたサララップの芯がぐらぐら揺れることに気付き、「レーンの上は、揺れるな」と、段ボールのレーンから近い床にピンを並べ替えました。そうすると、床の上のピンは揺れなくなり安定しました。

転がす距離が長くなったことを感じたのか、転がし始めの位置を自分の届きそうな位置に変えて転がす子どもの姿が見られます。また、「一個ずつ転がすより二個一緒に転がした方が倒れた!」、「今度は、三個にしてみよう」と、それぞれが自分のピンが倒れる方法を考えたり試したりする子どもの姿も見られました。

片づけの後、「今日の遊びの自慢は、何かな」と保育者が声を掛けると、子どもたちは、『木の葉や木の実を使って工夫して作ったキーヤペンダント』『自然物を組み合わせた魚や動物』を見せ合います。また、『ボウリングのドングリ転がしが成功したこと』『なかなか当たらなかったこと』を発表し合う場にもなっています。見せ合う、伝え合うことで、さらに満足感が広がっているようです。作るだけではなく、作った物を使って遊ぶ楽しさを感じている子どもたちの姿から、遊びコーナー作りやお店屋さんごっこへの展開が、今後予想されます。

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら諦めずにやり遂げることで、達成感を味わい自信を持って行動する。

#### 事例から見られる10の育ち 自立心

A児とB児のボウリングのレーン作りは、自分たちで材料を探すところから始まっている。出来上がったはずだったレーンからドングリボールがはみ出すことが分ってくる。その後、工夫しながらはみ出し防止柵を作り始め、テープを貼り終えて柵が出来上がると、「出来たなあ」と喜び合う姿に達成感を味わっていることが伺える。

また、サララップの芯が倒れやすいことに気づいて倒れにくい床に並べ替えるなど、自分で判断して遊びが楽しくなる方法を考え出している。

#### 事例から見られる10の育ち 協同性

A児とB児のボウリングに対するイメージがレーン作りに向けて共有していることにより、相手がしていること、しようとすることを受け入れ、協力しあっている姿が見られている。

転がす役とピンに見立てたサララップの芯を並べる役に分担して試す姿や一人では、なかなかうまく貼れない曲がりのある芋づるを、テープを切る役目と貼る役目に分担して完成させる姿などから、また、力を合わせてやり遂げた後の満足感、充実感も味わっている。

#### 自立心・協同性 環境構成のポイント

- 自分たちで種類分けした木の実や木の葉、他の材料を子どもたちの身近に置いてあることで、イメージしたものを実現しようとする意欲につながる環境。
- 最後まで友達とやり遂げ、満足感を味わえることにつながる保育者の言葉掛けや関わり。「認める」「励ます」「気付きを応援する」また、困りの姿に対しては、「さりげなく助言する」等。
- 友達の考えを受け入れ、遊びに取り入れるなど、互いに認め合える友達の存在。